



教育推進室だより

第12号

平成29年7月14日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
電話60-1241



新学習指導要領の実施に向けて ～地域の教育力を生かした質の高い教育を～

指導課長 秋山 美栄子

平成17年度から3年間、指導主事として勤務していたこの武蔵野市で、再び仕事をさせていただくご縁を得ました。大変ありがたいことだと思っています。指導主事の時には、自転車に乗って年間200回ほど学校を訪問していましたので、校舎のたたずまい、中央通りの桜のトンネル、成蹊大学脇のケヤキの新緑・・・、多くの変わらない光景に再び触れ、懐かしさを感じています。自然豊かな武蔵野市の環境や元気で明るい子どもたちの姿は変わりませんが、グローバル化や情報化の進展などにより、学校教育に求められる課題は随分変わってきています。本年3月31日には、新しい学習指導要領が告示され、小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度から施行されることとなりますので、これからの数年間は、新学習指導要領の全面実施に向けた準備を着実に進めていかなくてはなりません。

さて、武蔵野市ではより質の高い教育を目指し、平成13年度から「開かれた学校づくり協議会」を各学校に設置し、保護者や地域住民の意見や要望を生かしながら地域社会に開かれた特色ある学校づくりを進めてきました。この「開かれた」という言葉は、新学習指導要領のキーワードである「社会に開かれた教育課程」と重なるものです。ちなみに、新しい小学校学習指導要領の前文には、次のようなことが書かれています。(中学校学習指導要領も同様です。)

(前略) 教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのように資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。 (中略) 児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。 (後略)

学校と地域社会が双方向に連携・協働していくことは、子どもたちの資質・能力を伸ばすとともに、よりよい地域社会づくりにもつながるものと考えます。

その学校と地域社会の連携の要となるのが、「地域コーディネーター」です。地域の教育力(人材や環境等)を学校教育に取り込んでいくための重要な役割を果たしています。中学生の職場体験先の開拓や、オリンピック・パラリンピック教育のゲストティーチャーとなる外国の方の紹介等、各学校のニーズに沿って活動していただいておりますが、地域コーディネーター同士が連携することで、より多様な人材に学校教育に関わっていただくことができるようになるものと考えます。今年度も市の職員である学校支援コーディネーターがつなぎ役となり、地域コーディネーター相互の協働を一層推進していきたいと思っております。市民の皆様のご力を結集し、質の高い武蔵野市の教育を進めていくために、さらなるご理解・ご協力をお願いいたします。

平成 29 年度

地域コーディネーター 開かれた学校づくり協議会委員

委嘱状交付式を開催



地域コーディネーター委嘱状交付式

5月19日（金）、全小中学校18校の校長から推薦された地域コーディネーターと、開かれた学校づくり協議会委員の方々への委嘱状交付式がそれぞれ行われました。

「地域コーディネーター」は昨年度から開始した制度で、学校と地域をつなぎ、学校教育を支援してくれる学校の強力なパートナーです。今年度も昨年度と同じメンバーの方々を引き続き地域コーディネーターに就任していただき、さらに様々な活動が推し進められるものと期待しています。

「開かれた学校づくり協議会」は学校運営（学習指導や学校行事等の教育活動に関すること、児童及び生徒の指導に関することなど）に関して、地域、保護者等から広く意見を求め、地域社会に開かれた特色ある学校づくりを進めるために、各学校に設置されています。

学期ごとに協議会を開催し、年度当初には学校運営方針に対してご意見をいただくほか、毎回様々なご意見をいただいています。

また、各校の代表者で構成される代表者会も年2回開催し、本市が抱える教育課題等を共有しご協議いただくなど、開かれた学校づくりに大きく貢献していただいています。



開かれた学校づくり協議会委員委嘱状交付式

地域の力で子どもを守る

平成 29 年度 武蔵野市いじめ問題関係者連絡会議

5月29日（月）に武蔵野市いじめ問題関係者連絡会議が開催され、いじめの未然防止と早期解決に向けた各学校の取組や、「SNS 学校ルール」等の情報モラルの育成などについて協議が行われました。この会議はいじめ問題に対する具体的な対応策・改善策に関する協議や情報交換を行うことにより、全市的な行動連携を深めることを目的として、年1回開催しております。今年度は小・中学校長、PTA 会長、武蔵野警察署、青少年問題協議会、地域福祉活動推進協議会等の関係機関の方々など18名で協議を行い、出席者の皆様から多くのご意見をいただきました。

【 連絡会議の中で出された主な意見 】

- ・ いじめの未然防止や早期解決のために、学校、家庭、学童クラブ、あそべえ、地域との連携を大切にしている。
- ・ 大人も家庭が安定していないと仕事がうまくいかないように、子どもも家庭を安定させることが学校生活の充実につながる。
- ・ SNS は日々進化しており、フィルタリングなど、自らが安全を確保する意識を高める必要がある。



当日の連絡会議

出席者の皆様からいただいたご意見を踏まえ、今後もいじめ防止に向けた取組を一層充実させてまいります。



新たな取組み紹介



第二小学校で

めざせ！教員の多忙化解消

副校長事務補助臨時的任用職員の配置



大野田小学校で

教員の勤務が過重であるとして、その働き方については全国的に議論がされているところです。本市でも平成26年度に実施した「武蔵野市立学校職員意識調査」の結果を踏まえ、平成28年4月からは教員の多忙化解消に向けた「先生いきいきプロジェクト」に取り組んでいます。

その一環として、この4月からは、特に多種多様な業務を抱えて多忙な副校長の事務補助として臨時的任用職員を各校に配置しました。まだ学校に配置されたばかりですが、大きな効果が出始めているようです。各種印刷物の配布や掲示、古い書類等の整理、職員の出勤簿整理に関する補助など、副校長事務補助の仕事は広範囲に及んでおり、副校長の業務がいかに多岐にわたるものであるか、あらためて驚かされます。今回、そのうちの2校を訪問し、その様子を取材してきましたのでご紹介いたします。

【第二小学校】 今まで同校で学校事務嘱託職員として活躍していた郡司美恵子さんがお勤めくださることになりました。すでに学校のことを熟知しており、この4月に着任した副校長に事務機器の取扱説明も行うなど、特に多忙な年度初めも副校長がストレスなく業務に取り組めるよう大きな力を発揮してくれたそうです。今は、あふれるばかりに資料のある資料室の整理も任されながら、日々、様々な業務に取り組んでいるそうです。

【大野田小学校】 通常の学級22、特別支援学級4、児童数780人余りの大規模校です。着任した元第四小・第三中PTA役員の堀内智子さんへの期待は大きく、この制度開始後すぐに任用申請が行われました。PTA業務で副校長の多忙さを垣間見ており、学校を支援したいという強い志をもって仕事をしてくださっています。顔を合わせる機会がとれない時は業務申し送り書で連絡をとるなど、副校長との息もぴったり。学校全体にも余裕が出てきたことが感じられるそうです。



小学校英語教育推進リーダーの配置



平成29年3月新学習指導要領が告示されました。平成32年度から小学校第3・4学年で年間35時間の外国語（英語）活動が、小学校第5・6学年で年間70時間の外国語（英語）の学習が始まります。また、平成30年度からは段階的に移行措置が実施されます。

本市では、これまでも小学校全校で第5・6学年の外国語活動に35時間、第4学年に10時間、今年度新たに第3学年にも3時間まで実施可能にするなど、ALT（Assistant Language Teacher）の協力による英語教育を推進してきました。

新学習指導要領では、小学校中学年から「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、高学年では発達段階に応じて段階的に「読むこと」及び「書くこと」を加えた教科としての外国語学習を行うことが定められています。

今年度より外国語活動の授業づくりについて指導・助言等をする英語教育推進リーダーとして、第一小学校の清水夏希主任教諭が配置されています。自校の外国語活動の充実はもとより市内全小学校への訪問支援を行うなど、小学校教員の英語の授業力の向上に努めています。

今後も、来年度から始まる新学習指導要領の先行実施に向け、児童の意欲を喚起する教材やALTを活用した授業のあり方等を研究し、小学校英語教育のさらなる充実を図ってまいります。



清水夏希主任による授業

「チーム五中ブロック」誕生！！

こんにちは、第五中学校地域コーディネーターの秋山です。この新しくできた役職もまだ2年目。試行錯誤の毎日ではありますが、何も分からなかった初年度に比べ、最近は他校のコーディネーターの皆さんと情報交換しながら活動をしています。

第五中では、菅野由紀子校長とも相談し、中学2年生の職場体験に関する様々な業務をお手伝いすることになりました。「まかせてください！」なんて大風呂敷を広げた昨年だったのですが、今年度、いざ現状を目の当たりにしてみても…。その作業の多さと大変さにびっくり。先生方の苦勞もつくづくわかったのですが一人ではとても無理な作業量でした。

そこで、思いついたのが第五小、関前南小のコーディネーターの藤井さん、島田さんに相談すること。菅野校長からも第五小の嶋田晶子校長、関前南小の菅原このみ校長にもお願いし、快く引き受けてもらい、晴れてここに「チーム五中ブロック」が誕生したわけです。ということ



地域コーディネーター連絡会

で、西久保／関前地区では今は3人で活動していますが、そもそも「地域のこと」ですから、第五中だけでなく、第五小、関前南小と連携することはとても心強いです。もちろん第五中だけでなく、お互いの学校で困ったことがあれば互いに出動(?)します。一人より二人、二人より三人で、チームワーク抜群の「チーム五中ブロック」で頑張っています。



【お知らせ】

シリーズの『初任の先生“今日もがんばる”』と『地域コーディネーター活躍中!!』を今後は交互に掲載してまいります。どうぞお楽しみに。

～地域で活躍している団体紹介 <その11>～

武蔵野市助産師会 / いのちの授業担当

出前授業いたします

身体・性に関する正しい知識と理解「いのちの授業」

医療と生命教育の現場で働く助産師として、都内（文京・台東・世田谷・中野・三鷹等）の小・中・高校や大学で、“いのちと性”“自分と相手を大切にしよう”“デートDV防止”などをテーマにした講座を多数行っています。『いのちの授業』では、自分の身体やその成長を正しく理解することで、自尊感情や身近な相手を尊重する気持ちを育てます。性情報が氾濫する昨今、ネットを通して子どもたちに入ってくるものは商品化され歪められた“性”がほとんどです。そうした中で若年化する「デートDV（恋人間でおきる暴力や支配）」被害・加害の防止や、望まない妊娠、性被害・性感染症の予防を行うには、まず、対等で尊重しあえる“良い関係性”の理解と、性に関する正しい知識が不可欠であり、それらは早いうちから年代に応じた形で子どもたちに考えさせつつ、学んでほしいものです。

性の本質は互いの尊重や自立であることを、身体に関する正しい知識と共に、子どもたちに伝えていきたいと考えています。

お問い合わせは教育推進室または男女平等推進センターにお電話を。
(教育推進室)0422-60-1241
(男女平等推進センター)0422-37-3410



会長 大田 静香さん

【お知らせ】

前号において第一中学校井手夏子教諭のお名前の表記に誤りがございましたこと、お詫び申し上げます。次号は、食を通して世界を知る「世界の給食～ルーマニア編～」、セカンドスクール報告などを掲載する予定です。教育推進室だよりについてお気づきの点やご意見がありましたら、教育推進室までお寄せください。